

## 第10 調布市福祉人材育成センターの運営

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	調布市福祉人材育成センターの運営		市	市	○

## 1 福祉人材の養成

結果の概要

- 知的障害者移動支援従業者養成研修、介護職員初任者研修、重度訪問介護従業者養成研修、医療的ケア支援者養成研修（特定の者）、同行援護従業者養成研修、行動援護従業者養成研修の6研修を合計8回実施した。医療的ケア児等支援技術向上研修は集合研修を2回、派遣研修を1回実施した。
- 介護職員初任者研修は定員を新型コロナウイルス流行以前の20人に戻した。受講生は令和4年度より1人多い8人であった。
- 介護職員初任者研修では新型コロナウイルスにより中止していたホームヘルプ同行実習を再開した。
- 知的障害者移動支援従業者養成研修では1回目は実習に変えて演習プログラムで対応したが、2回目はガイドヘルプ同行実習を再開し、実際のサービス提供現場から学ぶことができた。
- 介護職員初任者研修では障がいについて理解を深めるために、障害福祉サービスを利用しながら地域生活を行っている障がい当事者に話をしてもらう時間を設けた。
- 資格研修全体の受講者数は98人で、令和4年度より16人増加、定員充足率は73%で10ポイント上昇した。
- 資格研修の修了者アンケートでは、回答者の100%が研修について「大変満足」「満足」と回答した。
- 資格研修修了後に活動につながる人をさらに増やすために、介護職員初任者研修と重度訪問介護従業者養成研修では事業所による説明会を実施、同行援護従業者養成研修では事業所の窓口を訪問、知的障害者移動支援従業者養成研修と行動援護従業者養成研修では事業所のパンフレットを配布し情報提供を行った。
- 医療的ケア児等支援技術向上研修の集合研修は、医療的ケアを提供している福祉職だけでなく、医療的ケアに興味のある方まで対象を広げたが、令和4年度よりも申込者が少なかった。
- 医療的ケア児等支援技術向上研修の派遣研修は、希望する事業所が令和4年度に引き続き1ヶ所のみであった。
- 福祉のしごと相談・面接会の参加者は令和4年度より1人少ない43人だった。就職者は9人で就職率は21%となり、令和4年度よりも13ポイント低下したが、他地域の福祉のしごと相談・面接会と比較して就職率は高かった。事業所PRは動画を作成し、期間限定で配信した。

実績等

## ○資格研修の参加状況

講義	実習	内容	講師	受講者 (定員)	定員 充足率	修了者
6月10日 11日	6月17日 ※演習	知的障害者移動支援従業者養成研修(第1回)	・調布市社会福祉事業団職員4人 ・他外部講師5人	18 (20)	90%	18
2月3日	2月10日	知的障害者移動支援従	・調布市社会福祉事業団	14	87%	13

第1部 第10調布市福祉人材育成センターの運営

4日	17日24日のうち1日	業者養成研修(第2回)	職員4人 ・他外部講師3人	(16)		
5月20日 21日	5月23日～ 7月19日	重度訪問介護従業者養成研修	・調布市社会福祉事業団職員3人 ・他外部講師3人	8 (15)	53%	8
7月8日 9日		医療的ケア支援者養成研修(特定の者)(第1回)	・調布講師1人 ・外部講師1人	5 (10)	50%	5
1月13日 14日		医療的ケア支援者養成研修(特定の者)(第2回)	・調布講師1人 ・外部講師1人	5 (10)	50%	5
なし	7月10日～ 3月31日	医療的ケア支援者養成研修(特定の者) (基本+実地研修)	なし	3		3
なし	4月1日～3 月31日	医療的ケア支援者養成研修(特定の者) (実地研修のみ)	なし	3		3
9月12日 ～11月17 日	10月16日 ～11月7日 のうち訪問、 通所各1日	介護職員初任者研修	・調布ゆうあい福祉公社職員6人 ・調布市ちょうふの里職員7人 ・他外部講師10人	8 (20)	40%	8
10月18日 ～21日27 日28日		同行援護従業者養成研修(一般・応用課程)	・東京都盲人福祉協会職員2人 ・外部講師1人	14 (16)	88%	14
12月7 日8日15 日16日		行動援護従業者養成研修	・外部講師11人	26 (26)	100%	26
計				98 (133)	73%	97
				6 (定員無)		6
				104		91

○資格研修受講者の概況

①参加人数と定員充足率の推移(過去3年)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
同行援護(一般課程)	16(100%)	16(100%)	14(88%)
同行援護(応用課程)	15(93%)	16(100%)	(一般・応用一体型)
介護職員初任者研修	14(88%)	7(43%)	8(40%)
移動支援	43(86%)	27(67%)	32(88%)
重度訪問介護	8(53%)	8(53%)	8(53%)
行動援護	23(96%)	15(63%)	26(100%)
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	16(53%)	8(40%)	10(50%)
		※実地研修を除く	
合計	135	98	98

②令和5年度受講生人数の性別内訳・平均年齢

	男性	女性	平均年齢
同行援護(一般・応用課程)	1	13	56.3
介護職員初任者研修	1	7	58.0
移動支援	3	29	50.5
重度訪問介護	2	6	48.6

行動援護	7	19	47.2
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	7	3	41.9
合計	21	77	50.4

③令和5年度受講生の受講動機（複数回答）

	資格を取得して就労したい	現在の業務に役立たい	介護・障がいについて学びたい	高齢者・障がい者（児）を支援したい	地域の役に立ちたい	その他
同行援護（一般・応用課程）	7	6	9	7	5	0
介護職員初任者研修	5	2	6	4	3	0
移動支援	16	19	22	21	10	0
重度訪問介護	4	4	6	7	3	0
行動援護	7	20	12	16	9	3
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	1	8	5	4	2	1
合計	40	59	60	59	32	4

（回答数 254 件）

④令和5年度修了生の研修満足度

	とても満足	満足	まあまあ	やや不満	不満
同行援護（一般・応用課程）	13	1	0	0	0
介護職員初任者研修	7	1	0	0	0
移動支援	18	13	0	0	0
重度訪問介護	6	2	0	0	0
行動援護	20	4	0	0	0
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	6	4	0	0	0
合計	70	25	0	0	0

（回答数 95 件）

⑤令和5年度新規活動者数（新規・継続）

新規：資格をいかして事業所に登録した者、新たに福祉分野で活動を開始した者

継続：福祉職として継続して従事している者

その他・不明：無職、福祉職以外の職を継続従事している者、その後の活動が不明の者

	新規	継続	その他・不明
同行援護（一般・応用）	1	1	12
介護職員初任者研修	6	0	2
移動支援(第1回)※第2回はR6.6月に後追い実施予定	0	1	17
重度訪問介護	0	1	7
行動援護	1	8	4
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	1	9	0
合計	9	20	42

（回答数 71 件）

○医療的ケア児等支援技術向上研修

(1) 集合型研修

日時	3月9日 ①9:30~11:30 ②12:30~15:30
----	-------------------------------

場 所	こころの健康支援センター別館1階ダイルーム
内 容	①摂食嚥下障害に対する支援について ②医療的ケア児等の介護（ポジショニング、移動・移乗支援）について
講 師	下川和洋氏（NPO 地域ケアさぼーと研究所）
受講生	① 4人（定員10人）② 1人（定員10人）

## (2) 派遣型研修

日 時	3月8日 10:00~12:30
場 所	こころの健康支援センター本館健康活動室 AB
内 容	医療ケアのフォローアップ研修
講 師	井上智子氏（看護師）
受講生	10人（アットスクール調布職員）

## ○就労支援事業の概況

日	時間	内容	出展事業所	参加者	新規 就労者数
11月19日	14:00~ 16:00	福祉のしごと相談・面接会	15	43	9(21%)

## ○就職説明会の参加者の現在の仕事

	福祉職	学生	無職	その他
福祉のしごと 相談・面接会	9	2	22	10

## ○就職説明会の参加者の保有資格（複数回答）

	初任者 研修	実務者 研修	介護 福祉士	社会 福祉士	看護師	資格なし	その他
福祉のしごと 相談・面接会	15	5	8	1	1	20	7

分析・課題

- 介護職員初任者研修はここ2年間申込者が減少している。新型コロナウイルスの影響によって、身体的接触を伴う業務が回避傾向であること、労働市場において福祉職を選択する人が減少していること等が原因として考えられる。
- 受講動機は「介護・障がいについて学びたい」「高齢者・障がい者（児）を支援したい」「現在の業務に役立てたい」という人が多かった。「資格を取得して就労したい」人は全体の15.7%で、「学びたい」「支援したい」という人たちを活動に向けて動機づける必要があることが改めてわかった。
- 福祉サービスを利用しながら地域生活をしている当事者の話を聞くことが、資格取得後の活動への動機づけになると思われるため、今後も可能な限り当事者の話を研修場面に取り入れたい。
- 資格取得後に新たにヘルパー等の活動につながった人はアンケート回答者の12.6%で令和5年度より7ポイント減少した。研修内で事業所の情報提供を行った効果は出ていないが、事業所についての情報提供は今後も工夫しながら実施したい。

## 2 専門性の向上

結果の概要

- 階層別研修は「初任者研修」「中堅職員」「チームリーダー研修」を実施した。「チームリーダー研修

は「管理職研修」と交互に行うため、2年ぶりに実施した。

○テーマ別研修はオンデマンド配信型が33講座、集合型が8講座の合計41講座を実施した。

○専門研修全体の参加者は1,396人で過去2年よりも増加した（令和3年度1,256人、令和4年度1,148人）。

○申込、アンケート調査はWeb上で実施した。

## 実績等

○専門研修の参加状況

### ①階層別研修

日	時間	タイトル	講師	受講者数 (定員)	定員 充足率
6月30日	9:00~ 12:30	階層別研修 初任者研 修講義編	山本雅章氏（調布市社会福 祉事業団）	24 (25)	96%
6月30日	14:00~ 16:30	階層別研修 初任者研 修マナー編	大村逸子氏	7 (25)	28%
7月14日	9:00~ 12:30	階層別研修 中堅研修 講義編	山本雅章氏（調布市社会福 祉事業団）	25 (25)	100%
7月18日	14:00~ 16:30	階層別研修 中堅研修 SST 編	清水有香氏	10 (10)	100%
8月4日	9:00~ 12:30	階層別研修 チームリ ーダー研修	山本雅章氏（調布市社会福 祉事業団）	18 (25)	72%
合 計			定員有	84 (110)	76%

### ②テーマ別研修

日	時間	タイトル	講師	受講者数	定員 充足率
5月15日 ~7月7日	オンデ マンド 配信	①福祉職が知っておきたい発達障 がい・てんかんの薬	中川栄二氏 （国立精神・神 経医療研究セン ター）	89	
		②BCP 策定研修	小島秀人氏	38	
		③計画相談支援研修 加算編	小島秀人氏	34	
		④福祉職の学びのススメ	山本雅章氏（調 布市社会福祉事 業団）	35	
		⑤障害の理解～障害を考える視点 ～	山本雅章氏（調 布市社会福祉事 業団）	48	
		⑥ケアの眼差しとは何か	結城俊哉氏 （立教大学）	23	
		⑦尊厳の保持と自立支援	結城俊哉氏 （立教大学）	33	
		⑧福祉実践の担い手にとって学ぶ ということ	結城俊哉氏 （立教大学教 授）	23	

	⑨福祉職としてのコミュニケーションの基本	中島悦子氏 (調布市社会福祉事業団)	73	
	⑩知的障害のある人への支援	伊藤巧氏 (ちょうふだぞう)	48	
	⑪高齢者をエンパワメントするソーシャルワーク	渡辺裕一氏 (武蔵野大学)	17	
	⑫誰も孤立しない地域を作るために～福祉職ができること～	渡辺裕一氏 (武蔵野大学)	30	
	⑬発達障害者支援の基本	新井豊吉氏 (東京家政大学)	68	
	⑭障がい者の家族支援	新井豊吉氏	52	
	⑮発達が気になる子どもの家族支援	井上雅彦氏 (鳥取大学)	59	
	⑯コミュニティ・オーガナイズングを学ぶ	室田信一氏 (東京都立大学)	27	
	⑰改めて自己決定について考える	稲沢公一氏 (東洋大学)	45	
	⑱エンパワメントのパラドックス	稲沢公一氏 (東洋大学)	30	
	⑲わかりやすい SST	清水有香氏 (SST 普及協会)	50	
	⑳知的障がいのある人の認知症	木下大生氏 (武蔵野大学)	39	
	㉑罪を犯した知的障がい者の支援	木下大生氏 (武蔵野大学)	34	
	㉒多様な人たちが生きていける社会とは	平野方紹氏 (立教大学)	27	
	㉓強い組織をつくる	天野聖子氏	41	
	㉔医療的ケアって大変な事なの？	下川和洋氏 (地域ケアサポート研究所)	40	
	㉕高齢者の生活を支援するために	小幡真也氏 (フロリール調布)	14	
	㉖高齢者の自立を支援するために	小幡真也氏 (フロリール調布)	11	
	㉗ジェンダー平等と包括的性教育	浅井春夫氏 (立教大学)	54	
	㉘障がい者の性についてのミニ学習会	任海園子氏	10	

第1部 第10調布市福祉人材育成センターの運営

7月18日	10:00～ 12:00	㉔障害福祉制度の基礎	小島秀人氏	28 (30)	93%
9月5日	10:00～ 11:30	㉕障害者虐待防止研修	針ヶ谷かおり氏 (障害福祉課)	27 (30)	90%
10月17日	10:00～ 12:00	㉖障害福祉サービスの請求事務の 基本	石川大貴氏(障 害福祉課)	18 (30)	60%
11月28日	10:00～ 12:00	㉗障害福祉職員向け 介護保険制 度を知ろう	障害福祉課&高 齢者支援室	15 (30)	50%
1月12日	14:00～ 16:00	㉘福祉職の記録の書き方研修	保正友子氏(日 本福祉大学)	19 (30)	63%
1月26日	10:00～ 12:00	㉙BCP策定研修 ～感染症編～	小島秀人氏(障 害福祉課)	16 (30)	53%
3月8日	14:00～ 16:30	㉚障害者虐待防止研修 援助職のダークサイドを考える	結城俊哉氏(立 教大学)	21 (30)	70%
3月12日	10:00～ 12:00	㉛発達が気になる子どもの理解と 支援	市川奈緒子氏 (元・白梅学園 大学)	15 (30)	50%
12月1日～3月 22日	オンデ マンド 配信	㉜BCP策定研修	小島秀人氏(障 害福祉課)	23	/
		㉝障害福祉制度の基礎	小島秀人氏(障 害福祉課)	40	
		㉞障害福祉サービスの請求事務の 基礎	石川大貴氏(障 害福祉課)	29	
		㉟障害福祉事業所向け～介護保険 制度を知ろう～	障害福祉課&高 齢者支援室	33	
		㊱BCP策定研修～感染症編～	小島秀人氏(障 害福祉課)	30	
合 計			定員有	159 (240)	66%
			定員無	1,237	
			全体	1,396	

※ オンデマンド配信研修は申込者数を受講者数としてカウントしている。定員はなし。

### 分析・課題

- 令和5年度は配信型研修を33講座と例年の倍以上配信した。そのことが参加者増加の要因となっている。
- 令和4年度と同様に集合型研修を8講座実施したことにより、市内の福祉職が交流する時間を設けることができた。
- オンデマンド配信は、受講の機会を柔軟に確保できることから続けてほしいという要望が多い。今後も研修の内容や目的に合わせて、配信型・集合型を検討し、可能な限り配信できるようにしたい。

### 3 市民参入に向けた普及啓発

#### 結果の概要

- ふくしの窓3月号の1面と2面で福祉人材育成センターの事業と実績を紹介した。
- ホームページに研修案内の記事や説明動画を掲載した。また、市内の福祉事業所の求人情報を掲載し、事業所と求職者が結びつくように支援した。
- 福祉や障がいについての普及啓発を目的に「ちょうふ福祉ヒューマンライブラリー」を開催した。本役として知的障がいのある方1人、高次脳機能障がいのある方1人、精神障がいのある方1人、発達障がいのある方1人が参加した。アンケート回答者の100%が「本」役の人に対する理解が「少し深まった」「深まった」と回答した。（※ヒューマンライブラリーとは人を本に見立てて貸し出す図書館のようなイベント）

#### 実績等

##### (1) ちょうふ福祉ヒューマンライブラリー

日時	3月2日 14:00～17:00
場所	こころの健康支援センター本館2階
本	4人 「日々の成長～父とガチンコ～」URIBO!氏 「重症化したうつ病の症状が改善に向かうまで」カエデトウ氏 「高次脳機能障害ってなんだ？」後藤究氏 「僕の発達物語～これは楽しい本です～」ひろっち氏
読者	16人

##### (2) ホームページへの求人情報の掲載件数

高齢	障害	保育	医療	その他	高齢・障害	障害・その他	保育・その他	障害・保育・医療	計
4	20	4	0	3	2	2	2	0	37

#### 分析・課題

- 福祉ヒューマンライブラリーについて、参加者からは「直にやり取りができることで、本役の方の価値観が伝わってきた」「自分の普通の境界線がグラデーションになった」等の感想があり、「当事者との対話を通じた障がい理解」という目的は達成できたと思われる。
- 読者の中にも障がいがある方がおり、「当事者と話す機会がなかったので、とてもよい機会だった」「同じ障がいのある人の話を聞くことができてよかった」等の感想から、回復への道のりのストーリーを直接聞きたいというニーズを当事者自身が持っていることが分かった。

### 4 事業所あるいは職員間のネットワーク形成

#### 結果の概要

- 令和4年度の福祉実践フォーラムにおいて、性教育について継続して学び、共有する場を求める意見が多かったことから、「障害者の性についてのミニ学習会」を開催した。

- 福祉実践フォーラムについて、企画会議メンバーで検討を重ね、様々な分野、階層の福祉職に共通する課題である職員育成について取り上げることとし、「これでいいのか！？福祉実践における『まなび』と『そだち』」をテーマに決定した。
- 福祉実践フォーラムのシンポジウムでは、市内及び市外事業所の職員育成の取組と実習生指導の実践報告を通じて、福祉職が共通の学びを得られるようにした。分科会では、3つの階層にわかれ、自分や職場の「まなび」や「そだち」を振り返り共有する場とした。参加者が安心して発言できるように、グループごとにファシリテーターを配置した。まとめでは、分科会のファシリテーターに各分科会の内容を報告してもらい、学びを統合した。

(1) 障害者の性に関するミニ学習会

日時	6月23日 17:30～19:00
場所	こころの健康支援センター
テーマ	「障害者の性」
対象者	市内在勤の障害福祉事業所の職員
参加者	13人
目的	障害者の性についての現状を共有し、福祉現場でどのような支援ができるのか検討すること
講師	任海 園子氏

(2) ちょうふ福祉実践フォーラム

日時	2月18日 13:00～17:30
場所	こころの健康支援センター
テーマ	「これでいいのか！？福祉実践における『まなび』と『そだち』」について
対象者	調布市在勤の福祉職等
参加者	52人
シンポジウム	ファシリテーター：木内洋(こころの健康支援センター) シンポジスト：上村勇夫氏(日本社会事業大学) 関口直志氏(立川福祉作業所) 中島悦子氏(調布市社会福祉事業団)
第1分科会	「5年未満」分科会 参加者：7人 ファシリテーター：関口直志氏
第2分科会	「中堅・チームリーダー」分科会 参加者：14人 ファシリテーター：中島悦子氏 新井敦子(こころの健康支援センター)
第3分科会	「管理職・施設長」 参加者：18人 ファシリテーター：栗城耕平氏(希望ヶ丘) 田村敦史(市民活動支援センター)
まとめ	ファシリテーター：結城俊哉氏(立教大学)

分析・課題

- 3つの分科会のうち、「管理職・施設長」の申込が多く、職員の育成が管理職・施設長にとって切実な課題であること伺えた。
- 今回参加できなかった人のために、シンポジストの報告内容を別途撮影し、令和6年度の配信型研修としたい。

○フォーラムを通じて、福祉職のネットワークづくりという目的はある程度達成されたと思われるが、可能な限り研修でグループワークを取り入れることによって、新たなネットワークづくりやネットワークの維持につなげていきたい。

## 5 運営委員会

### 結果の概要

○学識経験者、関係機関、各ネットワークの代表、当事者を委員として運営委員会を開催し、事業運営についての意見交換を行った。

### 実績等

○調布市福祉人材育成センター運営委員会構成（敬称略）

任期：令和5年4月1日～令和7年3月31日

氏名	選出区分
結城 俊哉	学識経験者（立教大学教授）
伊藤 文子	市民有識者（訪問看護ステーションかしの木）
秋元 妙美	市民有識者（NPO 法人全国重度障害者支援協会 CIL ちょうふ代表）
進藤 美左	当事者又は家族会（調布市障害者（児）団体連合会）
桜井 裕二郎	地域関係機関（調布ゆうあい福祉公社）
高杉 加奈	地域関係機関（調布市社会福祉事業団相談支援事業所「ちょうふだぞう」）
鈴木 美里	調布地域精神保健ネットワーク連絡会
亀田 良一郎	調布市福祉作業所等連絡会
竹内 悦子	調布市地域包括支援センター連絡協議会
前田 侑哉	介護保険サービス事業者調布連絡協議会
高村 卓朗	東京都福祉人材センター
長田 将夫	行政（調布市高齢者支援室）
小島 秀人	行政（調布市障害福祉課）
広田 茂雄	社協関係者（理事）
田島 誠	地域関係機関（調布市社会福祉協議会相談支援事業所「ドルチェ」）

○令和5年度調布市福祉人材育成センター運営委員会開催状況

回数	開催日	内容	出席人数
第1回	6月5日	令和4年度事業報告・決算報告（案）、令和5年度事業計画	13
第2回	9月26日	6～9月事業報告	12
第3回	12月21日	10～12月事業報告	13
第4回	3月21日 ハイブリッド	1～3月事業報告、令和6年度事業計画（案）について	14